

教育目標		<b>豊かな心 すこやかな体 人とかかわる力</b> <b>・自分で考え、行動する子ども 健康でのびのびと活動する子ども しみずみずしい感性をもつ子ども 思いやりの心をもつ子ども 仲間と共に伸びる子ども</b>						
重点目標		<b>(1) 幼児がいきいきと遊び、生活できる保育の充実をはかる (2) 広い自然豊かな園庭を生かした保育環境を園児とともに整備し創っていく</b> <b>(3) 近隣の小学校や保育所との交流を図る (4) 保護者の子育て支援をする</b>						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	教育課程	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育目標に向けてのより具体的な保育実践</li> <li>24ヶ月を見通した指導のポイントを入れる、教育課程の見直し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度の研究から分かった伝えたい気持ちについての具体的な指導のポイントを教育課程の中に盛り込む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>期ごとに見直し、今年度、昨年度の子ども達の姿と照らし合わせる。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>学期ごとではあったが、見直すことができた。研究の講師の先生にも助言をもらい、作成してきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学期に1回見直す機会をもち、子どもの実態に、より即しているかを見極める。</li> </ul>	担任が2年間もつことで、より子どもとの絆が深まり子ども理解につながる。
	保育指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育方法の改善と工夫（保護者とともに直接体験を通して伝え合い、育ち合う保育の創造）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵本貸出の見直し</li> <li>参観日の見直し</li> <li>年間3回講師を招聘し、園内研究会を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵本貸出カードに保護者記入欄を設けて、教師からのコメントも記入し、保護者とやりとりをする。年間5回参観日に「親子の絵本タイム」を設ける</li> <li>伝えたい気持ちの育みを支えるため取組を記録して話し合い、保育の工夫に努める。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>参観日の「親子の絵本タイム」前に「お邪魔いたします号」を5号発行し、伝えたい気持ちについて保護者啓発を行った。</li> <li>園内研究会では活発な話し合いができ、3年間の成果がまとめられた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵本タイムは引き続き年間5回以上取り組む。絵本カードは保護者の負担にならないように週1回を継続できる様式にする</li> </ul>	保護者に無理のない程度で引き続き持続してほしい
	特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育指導案（個別指導計画）の改善と工夫</li> <li>体幹を鍛えるための保育の推進</li> <li>職員の連携強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの実態に合ったねらいや支援方法を具体的に密に話し合い、指導案を見直す</li> <li>運動会や参観日に体幹を強くするための活動を取り入れる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任と担当者がより具体的にねらいを設定し、共通理解する。</li> <li>対象児の実態把握をし、継続した活動を個別の時間や園全体で取り組む（学期に1回以上）</li> <li>インクルージブ研修会を企画し講師を招聘して子どもの実態把握を行う</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導案を見直したことで、園全体で、同じ思いを持って対象児へ関わることができた。</li> <li>来年度以降は個別の時間をさらに増やしていくべきである。</li> <li>今後はインクルージブ研修会を1学期に行い、子どもの支援に生かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援を必要とする子どもの理解や実態把握を園全体で共通理解する場を月1回以上もち、他機関と連携しながら、よりよい支援方法を探っていく</li> </ul>	
豊かな心 健康やかな健康	健康教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>心身ともに健やかな幼児の成長を目指し体幹を鍛える遊びを取り入れるなどの、保育内容を見直す</li> <li>教師の体幹強化への意識の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参観日などで、親子一緒に運動遊びを楽しめる保育を行い保護者にも体幹を鍛える大切さ実践、啓発していく。</li> <li>体幹を鍛えるための様々な律動や運動遊びを保育に取り入れて実践していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講師を招聘し、保護者にも身体を動かす大切さや楽しさを感じてもらえるような内容の講習会を企画する</li> <li>夏休みに親子でチャレンジできるような体操を紹介・配布。</li> <li>体幹を鍛えるための様々な動きを保育の中に1日1回取り入れる。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども自身が興味を持ち、意欲的に遊ぶ中で体幹を鍛えているようなものが望ましい。教師の意識を改善することが体幹強化につながる。</li> <li>バランス等の新しい遊具を購入し体幹強化を促した。</li> <li>1日1回の律動の取り組みが難しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体幹の強化やバランス感覚の習得、健康な身体作りに繋がる運動遊びを引き続き行う。</li> <li>親子での取り組みを年に1回以上もつ。（せつようタイムの利用）</li> <li>律動では、朝の15分ほどのマラソンの時間を利用する</li> </ul>	下の子どもがいると、なかなか外遊びができにくい。園庭開放を工夫してみてもどうか
開かれ、信頼できる園	危機管理体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理マニュアルの作成とそれに沿った避難訓練の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年4回の訓練のもとに、園児や保護者に日ごろからの防災意識を図る。</li> <li>職員一人一人が日ごろから危機管理意識をもつ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年4回の訓練以外にも、職員の危機管理意識を高めるような研修を取り入れる</li> <li>アナフィラキシー児の発作に対応する研修を行う</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>年4回の訓練の中に、消防署から消火器を借りて消火器実施訓練を行った。</li> <li>消防署見学で実施訓練を行い、危機管理意識の啓発ができた。</li> <li>警察と連携して、不審者対応実施訓練を行った</li> <li>「かけつけカード」の作成。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>消防、警察の方々と連携をし、家庭啓発等を含めた勉強会を企画する</li> <li>引き続き、職員の危機管理についての研修会を行い、AED講習は実施訓練を園で1回以上行う</li> </ul>	電話の機能を今一度見直していくべきである。（何かあった時のために日々訓練を）
	家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>「みんなの広場」、「ちびっ子」や園庭開放を通し地域に開く。</li> <li>日頃から積極的に園の情報を発信する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎日、園庭開放を実施、子育て相談に応じる。</li> <li>ホームページの整備、公開。</li> <li>意見交換の場の設定</li> <li>預かり（せつようタイム）を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラスだより個人ノートを通し保護者との連携を密にする。</li> <li>ホームページを行事ごとに更新する。</li> <li>誕生日会の打ち合わせ等、機会を捉えて意見情報交換。</li> <li>預かり（せつようタイム）を学期に1回以上行う</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎日、園庭開放を実施し、子育て相談に応じた。</li> <li>ホームページを月に1回以上更新すると同時に、日頃の園の様子の子の写真の掲示をし、タイムに保護者に発信した。</li> <li>意見交換の場を設定した。</li> <li>預かり（せつようタイム）を年間7回行った</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページの中に保護者向け以外にも、分かりやすいコンテンツを1学期中に入れる</li> <li>せつようタイムは保護者の要望を聞きながら今後、学期に3回以上行う</li> </ul>	預かり保育は無理にする必要はないのでは、あくまでも保護者のニーズに応えていく。
人権教育の推進	人権教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の自尊感情を育てる。</li> <li>人権研修への参加を推進、保護者への啓発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>誕生会の持ち方を見直し、子どもたちの自尊感情を高める</li> <li>啓発のために保護者懇談会で、啓発を促す。</li> <li>職員自ら人権研修にすすんで参加し、人権感覚を高める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>誕生会で、ひとりひとりの良いところを保護者に語ってもらい、友達の良いところに気付く</li> <li>11月に人権に関する懇談会を行う</li> <li>保護者に対し、年1回以上の人権研修への参加をすすめる</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>誕生会では、子どものすてきな点を保護者に語ってもらうことで、子どもの自尊感情が高まった</li> <li>全保護者が、年1回人権研修への参加ができた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も、教師が保護者と共に入権意識を高め、子どもに伝えていけるよう、年間3回ある人権研修には必ず参加するように努める</li> </ul>	
学校関係者総括 伝えたい気持ちを1年間を通して職員同士連携して取り組んでおられる。								
次年度に向けた重点的な改善点 引き続き絵本の読み聞かせに力を入れていく。教育課程を見直し、研究テーマを新たに取り組んでいく								

